

5. 加賀市の地域医療の充実に関する 答申書(案)について



加賀市市民健康部介護福祉課

令和6年3月28日

(案)
加賀市の地域医療の充実に関する答申書

令和6年3月 日

加賀市地域医療審議会

答申内容

令和4年6月21日付発加介第274号で諮問された事項については、加賀市地域医療審議会では慎重に審議をした結果、下記のとおり結論を得たので答申します。

1 デジタル田園健康特区について

医療DXの進展や加賀市が独自に取り組む医療版情報銀行を踏まえて、地域医療の連携強化や効率化に取り組んでいくよう図られたい。

2 加賀市医療センターについて

(1) 公立病院経営強化プランについて

プラン内容については、概ね妥当と思われる。

なお、患者には医師の働き方の現状について丁寧な説明を心掛け、医師の働き方改革の推進を図られたい。

(2) 紹介受診重点医療機関について

初診時選定療養費の引き上げにより、医療難民を生み出さないよう留意すること。

3 山中温泉ぬくもり診療所について

収支は赤字であるものの改善されてきており、概ね良好であると思われる。

なお、山中温泉ぬくもり診療所の現状を踏まえて、今後の在り方や方向性の検討を進められたい。

地域医療審議会審議経過
令和4年度～令和5年度

加賀市地域医療審議会

1	加賀市地域医療審議会の組織.....	2
2	加賀市地域医療審議会の目的.....	2
3	審議の経過.....	3
4	地域医療の充実についての意見.....	4

1 加賀市地域医療審議会の組織（令和6年3月28日現在）

会 長	上棚 直人（加賀市医師会会長）
副会長	沼田 直子（石川県南加賀保健福祉センター所長）
委 員	新家 尚子（加賀市各種団体女性連絡協議会副会長）
委 員	伊勢 拓之（独立行政法人国立病院機構石川病院院長）
委 員	織田 忠明（医療法人社団長久会 加賀こころの病院院長）
委 員	河村 勲（加賀市医師会顧問）
委 員	北井 隆平（加賀市医療センター病院長）
委 員	車谷 勝行（石川県薬剤師会加賀支部相談役）
委 員	鈴木 一（加賀市歯科医師会会長）
委 員	橘 秀樹（加賀市医師会副会長）
委 員	辻 利英子（加賀市社会福祉協議会事務局長）
委 員	出口 康（医療法人社団慈豊会久藤総合病院副院長）
委 員	中野 裕紀（加賀市介護サービス事業者協議会会長）
委 員	前川 敏康（市民委員 [公募]）
委 員	吉崎 智一（金沢大学附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授）

（敬称略委員は50音順）

2 加賀市地域医療審議会の目的

本審議会は、加賀市地域医療審議会条例第1条の規定に基づき、加賀市の地域医療の充実を図ることを目的とする。審議会は、同条例第2条の規定に基づき、市長の諮問に応じ、地域医療施策に関する事項について調査審議し、市長に答申する。

3 審議の経過

- 令和4年度第1回会議

日時：令和4年8月9日（火）19時30分～20時50分

場所：加賀市医療センター 2階 KMCホール

- 会議内容

- (1) 会長、副会長の選出

委員の互選により会長に上棚直人氏、副会長に沼田直子氏を選出した。

- (2) 本審議会の目的と審議すべき課題について説明が行われた。

- (3) 加賀市長より地域医療の充実を図ることについての諮問を受けた。

- (4) 加賀市医療センターの運営状況について説明が行われ、意見が交わされた。

- (5) 山中温泉ぬくもり診療所の運営状況について説明が行われ、意見が交わされた。

- (6) その他、新型コロナウイルス感染症について、意見が交わされた。

- 令和4年度第2回会議

日時：令和5年3月6日（月）19時30分～20時30分

場所：加賀市医療センター 2階 KMCホール

- 会議内容

- (1) デジタル田園健康特区の取り組み状況について説明が行われ、意見が交わされた。

- (2) 加賀看護学校について説明が行われ、意見が交わされた。

- (3) 地域連携の取り組みについて説明が行われ、意見が交わされた。

- 令和5年度第1回会議

日時：令和5年7月26日（水）19時00分～20時30分

場所：加賀市医療センター 2階 KMCホール

- 会議内容

- (1) 加賀市医療センターの運営状況について説明が行われ、意見が交わされた。

- (2) 公立病院経営強化プランについて説明が行われ、意見が交わされた。

- (3) 紹介受診重点医療機関について説明が行われ、意見が交わされた。

- (4) 山中温泉ぬくもり診療所の運営状況について説明が行われ、意見が交わされた。

- 令和5年度第2回会議

日時：令和6年3月28日（木）19時00分～●時●分

場所：加賀市医療センター 2階 KMCホール

■ 会議内容

- (1) デジタル田園健康特区の取り組み状況について説明が行われ、意見が交わされた。
- (2) 公立病院経営強化プランについて説明が行われ、意見が交わされた。
- (3) 山中温泉ぬくもり診療所について説明が行われ、意見が交わされた。
- (4) 地域連携の取り組みについて説明が行われ、意見が交わされた。

4 加賀市の地域医療の充実についての意見

【現状・取組状況・今後の方針】として市が示した報告、説明を確認し、これらに対する意見を【審議会の意見】に示す。

(1) デジタル田園健康特区の取り組みについて

【現状・取組状況・今後の方針】

○医療版情報銀行の構築

- ・各医療機関にある医療情報を個人に返すことで、個人が有益にその情報を活用していく仕組み。
- ・この情報銀行に分析機能も追加し、ロコモ、フレイルなどを分析し、健康寿命を延ばしていく内容。
- ・医療版情報銀行は、市民の健康寿命の延伸につながる健康・医療情報を蓄積して、様々な健康施策に活用しやすくすることがその役割となる。
- ・1次利用は市民本人のために使い、情報銀行に入っている様々なデータを使ってその人に合わせた医療や介護を提供するために使う使い方がある。
- ・2次利用は個人を特定する情報を匿名加工する処理を行い、そのデータを用いて市の健康増進施策や福祉施策に役立てる使い方を想定している。

【審議会の意見】

- ・石川病院では、いしかわ診療情報共有ネットワークに情報を提供しておらず、情報を閲覧するのみとなっていますが、将来的に情報銀行が設立された場合、医療機関からのデータ提供はどのようになるのでしょうか。(R4②伊勢委員)
- ・セキュリティが非常に重要ですので、どのように運用するのかは慎重にならなければなりません。石川県の情報ネットワークが円滑に利用できるのか、現在運用しているものに全く互換性がないとなると、非常に手間がかかるのに加えて、システムが2つになるようなことがあれば、情報提供する医療機関の作業も煩雑に

なりますので、事業者と相談していくことになると思いますが、問題が生じないようにお願いします。(R4②橘委員)

- ・情報銀行には、南加賀保健福祉センターが関与する余地が無いように思いました。(R4②沼田委員)
- ・情報銀行のスキームの中にマイナポータルに記載があるので、マイナンバーカードの役割が今後大きくなると思います。しかし、マイナ保険証の使い勝手が非常に悪いので、あまり利活用がされておらず、また、マイナ保険証を医療機関に持参する人が非常に少ないのが現状であると思います。今後健康保険証とマイナンバーカードの紐づけが進んでいくと、マイナ保険証の利用も促進されていくと思いますが、マイナンバーカードをもう少し気軽に利用できるように、デジタル田園健康特区の強みを生かして、例えば加賀市独自のスマホアプリを作成し、それに対応した機能を付帯させるなどすれば、マイナンバーカードを利用する機会も増え、医療機関も促進しやすいのではないかと考えますので、そのような観点からも考えていただきたいと思います。(R4②鈴木委員)
- ・顔認証した情報を電波で送信する仕組みができると、非常に手間が省けると思います。デジタル田園健康特区として、補助金を生かして取り組みをしていくことも構想に含めていただきたいと思います。(R4②上棚委員)

(2) 加賀市が設置する医療機関について

① 加賀市医療センターについて

【現状・取組状況・今後の方針】

○加賀市医療センターの運営状況・公立病院経営強化プラン・紹介受診重点医療機関から

- ・質の高い医療機能を十分に発揮するとともに、地域において他の病院等との連携を強化しているかを検証する観点から、適切な数値目標を設定する。
- ・石川県の地域医療構想との整合性を図り、当院における役割・機能の明確化・最適化に取り組む見込みである。
- ・国の医師偏在対策や都道府県の医師確保計画を踏まえ、石川県地域医療支援センター等を通じた取組、医師・看護師等の派遣受入、職員採用の柔軟化、勤務環境の整備などの取り組みを強化する。
- ・医師の時間外労働規制が開始される令和6年度に向け、医師の時間外労働の縮減を図ることが必要である。
- ・加賀市医療センターの規模や置かれた環境といった地域の実状を踏まえ、経営の強化に向けた最適な経営形態を検討する。

- ・平時から新興感染症等の感染拡大時の対応に必要な機能を備えておく。
- ・経営強化プランの計画期間内における施設・設備に係る主な投資（大規模改修、高額な医療機器の導入等）について、必要性や適正な規模等について十分に検討を行う。
- ・医療の質の向上、医療情報の連携、働き方改革の推進と病院経営の効率化を推進ためのデジタル化の取り組み。
- ・医療の質の向上等による収入確保や医薬品費、医療材料費等の経費削減に積極的に取り組むことが重要であり、経営指標について、全国の公立病院、民間病院等の状況も参考にしつつ経営強化プラン対象期間末時点における数値目標を定める予定である。
- ・病院と診療所（かかりつけ医）の機能分化の推進を図るため、令和5年8月1日付けで石川県から紹介受診重点医療機関に認可された。

○加賀看護学校について

- ・加賀看護学校の建設については、資材高騰等の影響のため先送りすることとした。

【審議会の意見】

○加賀市医療センターの運営状況について

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、医療の環境が大きく変化しているため、直近の数値は、例年と異なる数値が計上されていると思います。その数値をどのように捉えるのかが、一つポイントだと思います。(R5①沼田委員)

○公立病院経営強化プランについて

- ・大きな病院であると、主治医制ではなく、その日に勤務している医者に対応する体制となっており、患者へ説明をする医者が、毎回異なる医者であるという現状について、今後の課題だと感じています。(R5①橘委員)
- ・チームとして働く医者たちが、患者への説明を、患者の安心安全という心理的な側面を担保しながら、どのようにされるのかについて、ぜひテーマとして考えていただけたらと思います。(R5①沼田委員)
- ・説明を受ける側としては、やはり同じ医者や、担当の看護師にお話を聞ける方が、安心感はあるのかなと思います。しかし、介護事業所についても、シフト制で変則勤務なので、ご家族の都合に合わせるのには厳しい状況です。対応が難しいというこの状況を、患者や利用者にも、どのように納得してもらえるかを考えると、事前の説明を丁寧にすることで、理解や納得が出来ると思います。(R5①中野委員)

○紹介受診重点医療機関について

- ・医療の安心安全について、患者の心理は非常に重要かと思えます。加賀市医療センターや加賀市医師会の先生たちで、どのような周知が良いかを考えていただく、あるいは行政としてどういう周知方法が必要なかを考えていかないと、紹介受診重点医療機関として開始するのは難しいと考えます。(R5①沼田委員)
- ・市民の方が困惑し、医療が混乱することを防ぐために、今後加賀市がシミュレーションを重ねながら、市民への周知を図っていくことを進めていってほしいと思えます。(R5①沼田委員)
- ・この特別な料金を徴収することにより、他の医療機関へ流れる患者の受け皿が十分に整っているのか、というところが不安なので、加賀市内の医療機関の受け入れ体制を強化していくべきだと感じています。(R5①出口委員)
- ・紹介受診重点医療機関の仕組みを導入しても、開業医が減少し、かかりつけ医の確保が難しくなってくるので、初めて受診される紹介状を持たない方々が、かかりつけ医に受診出来るのかについても、これからの課題として、議論していくべきだと思います。(R5①橘委員)
- ・紹介受診重点医療機関の初診料高額化により、医療難民が生まれまいかという懸念があります。(R5①新家委員)

② 山中温泉ぬくもり診療所について

【現状・取組状況・今後の方針】

- ・山中温泉ぬくもり診療所は統合新病院の検証委員会の答申を受け、山中地区の地域医療の激変緩和として市は地域医療振興協会を指定管理として設置したものである。
- ・令和2年度に継続運営可能な提案を期待し公募した結果、引き続き地域医療振興協会を指定管理として令和3年4月から5年間、指定管理として選定した。
- ・令和3年4月以降から、運営の健全化を考慮し、診療科は内科のみを基本とし、眼科及び耳鼻咽喉科を廃止した。
- ・決算状況について、光熱費等の経費削減に努め収支改善を図っている。
- ・診療所の今後の在り方・方向性の検討を行い、次期指定管理者の検討を図る。

【審議会の意見】

- ・コロナ禍であっても患者数があまり変わっていないところを見ると、このまま診療報酬の増加は期待できないように思われます。(R4①上棚委員)
- ・将来的に一番心配な点は、児童発達支援でのアフターケアです。OT（作業療法士）PT（理学療法士）的な要素で支援してくれるところが山中温泉ぬくもり診療所のメリットであるので、これからも加賀地域のリハビリテーション的な要素

として必要になってくると思います。(R4①上棚委員)

- ・子どもの温泉療法については成果を上げていたということで、なおさら温泉を利用しない手はないと思います。加賀市には温泉を活かした療法があまりないのが現状であると思うので、ぜひ温泉を活用してほしい。(R4①上棚委員)
- ・将来的に患者が増え、収益が増え、黒字化するのかと考えると、少し疑問があります。その中で、指定管理期間が満了したときに、山中温泉ぬくもり診療所の役割とはいったい何であったのかということをお場でも議論しながら、また加賀市でもその点をしっかりと踏まえながら、次の5年の指定管理を考えてもらいたい。(R4①鈴木委員)
- ・児童発達支援センターについて、非常に良い取り組みであるが、万が一山中温泉ぬくもり診療所の負担となっているのであれば、山中温泉ぬくもり診療所から切り離して加賀市が運営することも考えてもらいたい。(R4①鈴木委員)

(3) 地域連携の推進について

【現状・取組状況・今後の方針】

- ・加賀市医療センターの「地域連携センターつむぎ」には、病院の地域連携部門に加え、地域包括支援サブセンターを配置している。
- ・患者が早期に生活の場に戻り、また、できる限り住み慣れた地域での生活を続けられるためには、医療と介護の関係機関、専門職が役割を分担しつつ連携しながら支援を行う必要があるとの認識の下、「地域連携センターつむぎ」を中心として、介護職等からの相談対応や、地域ケア会議の実施等により市内における医療と介護の連携推進に取り組んでいる。
- ・加賀市医師会をはじめ市内の関係団体・機関が一体となって在宅医療・介護連携促進を実施している。具体的には医療と介護関係者による医療と介護の連携ワーキングにより、医療と介護の連携における課題の抽出や、研修会、事例検討会等の必要な対応の検討を行い、医療介護連携推進に取り組んでいる。
- ・介護事業所において、医療依存度の高い方のサービス提供を断った（事業所として対応ができなかった）ケースが多く、医療依存度の高い方への支援体制の強化を図ることが必要である。